

「結局、怖じ気づいちゃって（スプリットタンを）できなかったけれど、自分自身も含め、身体改造に興味を持つ人間の心理を分析したくて、これを書いたのかもしれない」

小説の中で彼女はルイにこう言わせている。 陽が差さない場所がこの世にないのなら自分自身を影にしてしまう方法はないか

「ほんの些細なことがきっかけで、もうこんな世界にいたくない、明るいものの届かない影になってしまいたいと思う時があるんです。だからとって、暗く目立たない存在になるのは、あまりに悲しいし、そんな人間で終わりたくない。その点、身体改造で武装すれば、存在感を放つ影になれる。見た目で判断する世の中を、“近づくな”とシャットアウトできる。もう一つ、身体改造に惹かれる人の中には、自分の身体を使って“私はこれだけできる”ってことを証明したいという気持ちもあるような気がします」

[http://subaru.shueisha.co.jp/html/person/p0311k\\_f.html](http://subaru.shueisha.co.jp/html/person/p0311k_f.html) から